

## インド進出邦銀の業務展開

愛知教育大学 西尾圭一郎

本研究は、一般的には海外進出顧客の支援のために国際展開を行うと捉えられている邦銀が、進出国の状況に対応して実際にどのような現地戦略を採っているのか、インドをケースとして研究する。とりわけ現地戦略を決定する要因と戦略の変化の過程を、バランスシートと収益構造の分析から明らかにすることが目的である。

2010年代に入り、邦銀は再び海外展開を活発化させるようになった。2010年代の邦銀の国際展開は、従来以上に途上国に注力して行われている。本研究が対象とするインドにおける邦銀の資産規模も、2012年以降急激な上昇を見せている。実際に邦銀の資産規模が増えているインドは邦銀の海外展開の最も大きな要因である顧客企業の進出が盛んである。国際協力銀行が日本の製造業企業に実施したアンケート調査（JBIC『わが国製造企業の海外事業展開に関する調査報告』2016年12月）によれば、インドはインドネシアや中国を押しつけて、最も有望な事業展開先とみなされている。そのため、邦銀のインドでの事業拡大は当然のことと考えられる。

これまで多国籍銀行論による分析では、邦銀の海外展開は、一般にリーダー／フォロワー戦略と呼ばれる、顧客企業の海外展開に対応したものであった。それゆえ海外での活動は商業銀行業務が中心であった。近年の再進出に際しても、邦銀の海外資産の動向を見ると規模は急増しているものの未だ貸付が中心業務のままである。

しかし、2010年代における邦銀のインドでの展開は進出顧客を支援するための貸付を中心とした商業銀行業務ではなく、証券投資の急拡大という形を取っている。そのような戦略転換は邦銀の海外活動全体で生じているわけではない。

そのようなインド進出邦銀のバランスシートの変化がいつ、どのような形で生じるのかということ进行分析した結果、進出行によって証券投資の比率が高まる時期が異なっていたり、運用の形態が異なっていたりすることがわかり、ひとくくりにインド進出邦銀の特徴を指摘できるものではないことが明らかとなった。そのため、今後はかつて行われていた多国籍銀行研究における邦銀の研究をより深めていく必要があることと、定量的な分析だけでなく定性的な分析についても、同時に進めていかなければならない。